

THINGS WE SAID TODAY

今日の誓い

Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

淡々とした中にもピリッとしたものが光る佳曲。ポールのダブル・トラックによるコーラスが美しい。㊦と㊧は比較的静かに進行していくが、㊨でいきなり異常な盛り上がりを見せる。ドラムスのハイハット・オープンによる8ビートと、ポールが弾くピアノの低音部のかき鳴らしが、音のすき間をうめている。この曲のキー・ポイントはここにあると思う。すなわち、㊦、㊧の部分と㊨の部分の音量の差、メリハリをいかにうまくつけることができるかによって、この曲の出来具合が変わってくるのである。したがってシンプルな8ビートをきざみ続けるドラムス&ベースも㊨の部分ではここぞとばかり張り切ってほしい。ギターIIはアコースティック・ギターのカッティング。ここで面白いのは、㊦の部分で、コードAmでしか弾いていない。ギターIのバックアップ・リフで3、4拍目がEmとなっているが、基本的にはコードAmの1

コード進行と考えていいだろう。ベースもコードAmの5度の音を入れたバックアップと解釈すればいいのだから。ピアノ㊨のカッコ内の音は1オクターブ下とってくれる。この曲のコード進行でちよつと光る部分がある。普通に聴き流していてもハツとなる部分で、まず㊨の4小節目のB^bと㊨の最後、ダル・セーニョ前のB^bである。どちらも次のコードはAmで、半音進行の動きとなる。まして㊨では3小節目のコードEのセブンスの音(D音)がメロディ。これをコードB^bの3度の音で代用している。このあたりのひねりはさすがである。メロディが先行しても、単純にうまく合うコードをつけるだけではなく、前後の関係を考えながらコード・ハーモニーを生み出すアレンジ力は、ビートルズの強い個性となっている。

50

㊦ 1. (Straight)
2.

Am Em7 Am

VOCAL

PIANO

GUITAR I

Guitar II

GUITAR II

BASS

DRUMS

(1x) You say you will love me
(2x) You say you'll be mine girl
(DS1x, DS2x) To make you mine girl

1x only DS1x DS2x 2x DS1x DS2x 2x DS1x DS2x

1 2 3 1 2 3 1 2 3

[illegible]

Am C D.S. 1x D.S. 2x C9 F 2x Bb 2x D.S. 1x D.S. 2x

Some-day when I'm lone-ly wish-ing you weren't so far a-way.
 Some-day when we're dream-ing deep in love not a lot to say.
 Some-day when we're dream-ing deep in love not a lot to say.

2.
A

Me I'm just the lucky kind Love to hear you say.

TAB

1 2 3

5 5 5 5

H.H. open

(Tambourine)

E7 A D7 B7

— that — love is love — And though we may — be blind — Love is here — to stay —

1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3

53

B^b7

— and that's en - ough

1 2 3

Coda Am

Guitar II

Guitar III

H.H. Open

D.S. 1 al Coda

(Tambourine)

Repeat & Fade Out